

## 平成25年4月定例教育委員会会議録

平成25年度塩尻市教育委員会4月定例教育委員会が、平成25年4月25日、午後1時15分、塩尻総合文化センター302多目的室に招集された。

### 会 議 日 程

#### 1 開 会

#### 2 前回会議録の承認

#### 3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について  
報告第2号 5月の行事予定等について  
報告第3号 後援・共催について  
報告第4号 平成25年度教育委員会事業部目標について  
報告第5号 平成24年度中学校卒業生進路状況について<非公開>  
報告第6号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について<非公開>

#### 4 議 事

- 議事第1号 平成25年度塩尻市奨学生の選考について<非公開>

#### 5 その他

#### 6 閉 会

#### ○ 出席委員

委員長	小 澤 嘉 和	職務代理者	渡 辺 庸 子
委員	田 中 佳 子	委員	石 井 實
教育長	山 田 富 康		

#### ○ 説明のため出席した者

こども教育部長	保 科 隆 保	こども教育部次長 (家庭支援室長)	清 水 進
教育総務課長	小 林 克 則	こども課長	羽 多 野 繁 春
生涯学習部長	岩 垂 俊 彦	生涯学習部次長 (スポーツ振興課長)	青 木 実
社会教育課長	平 林 雄 次	専門幹	渡 邊 泰 行
平出博物館館長	小 林 康 男	男女共同参画・人 権課長	熊 谷 善 行
市民交流センター長	田 中 速 人	市民交流センター 次長 (図書館長)	伊 東 直 登
交流支援課長	小 澤 和 江	子育て支援センター 所長	掛 川 佳 子

○ 事務局出席者

教育企画係長 上 條 史 生

1 開会

**小澤委員長** こんにちは。ただいまから4月の定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

4月1日付の人事異動で転入された、あるいは昇任された事務局の職員の皆さんから自己紹介をしていただきます。部長さん以下、係長さんまで自己紹介でよろしくお願いいたします。

**保科子ども教育部長** 私のほうから失礼いたします。4月の人事異動によりまして、4月から子ども教育部長を務めさせていただいております保科隆保と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

**岩垂生涯学習部長** 同じく生涯学習部長の岩垂俊彦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

**清水子ども教育部次長（家庭支援室長）** 4月1日から子ども教育部次長を兼ねて家庭支援室長になりました清水進と申します。よろしくお願いいたします。

**小林教育総務課長** 教育総務課長になりました小林克則と申します。よろしくお願いいたします。

**青木生涯学習部次長（スポーツ振興課長）** 生涯学習部次長を兼務することになりましたスポーツ振興課長の青木です。よろしくお願いいたします。

**平林社会教育課長** 4月から社会教育課長となりました平林雄次でございます。よろしくお願いいたします。

**小澤交流支援課長** 4月から課の名前が変更して、以前の市民活動支援課と総務課、1つになりまして交流支援課長の小澤です。よろしくお願いいたします。

**渡邊専門幹** 社会教育課専門幹を務めます渡邊でございます。よろしくお願いいたします。

**掛川子育て支援センター所長** 子育て支援センター所長の掛川と申します。よろしくお願いいたします。

**太田学校支援係長** 教育総務課学校支援係長の太田文和と申します。よろしくお願いいたします。

**竹中学校給食係長** 教育総務課学校給食係長の竹中康成です。よろしくお願いいたします。

**芦澤保育担当係長** こども課保育担当係長の芦澤さゆりと申します。よろしくお願いいたします。

**飯田家庭支援担当係長** 家庭支援室家庭支援担当係長の飯田哲司と申します。よろしくお願いいたします。

**荻村社会教育係長** 社会教育課社会教育係長を務めさせていただきます荻村幸と申します。よろしくお願いいたします。

**中野中央公民館係長** 4月から中央公民館係長中央公民館主事の中野忠雄と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

**中原男女共同参画係長** 男女共同参画・人権課係長の中原智彦と申します。よろしくお願いいたします。

**小澤委員長** お世話になります。よろしくお願いいたします。

それでは、続いて教育委員の自己紹介に移ります。教育委員長を務めております小澤嘉和です。よろしくお願いいたします。

**渡辺職務代理者** 職務代理者の渡辺庸子と申します。よろしくお願いいたします。

**田中委員** 委員の田中佳子と申します。よろしくお願いいたします。

**石井委員** 委員の石井實です。よろしくお願いいたします。

**山田教育長** 教育長の山田富康と申します。よろしくお願いいたします。

**小澤委員長** 1年間お願いいたします。補佐さん、それから係長さん、御退席よろしくをお願いいたします。

年度当初でありますので、私のほうから一言御挨拶をさせていただきます。お願いします。国レベルでは経済政策、あるいは外交問題等、急激な動きがあります。加えて教育施策の面からも目が離せません。例えば、学校週5日制の復活、歴史教科書にかかわる教科書検定の見直し、道徳の教科教化、6・3・3・4制の見直し、学力実態調査の公表問題、教育委員会制度の改革等々、教育再生実行会議の提言内容に、私たちは昨年以上に注視していかなければならないなど、こんなことを思います。やがては市町村に幾つかがおりて来るものと思います。やや私自身、身構える思いであります。県レベルにおいても教員の連続不祥事にかかわる教員の資質向上、あり方検討委員会の提言、これが具体化の方向に進んでまいります。例えば、地方教育行政の中へ人事権を移譲する問題、教員評価の問題、そして新たな研修体系、適正な中学校の部活問題、処分前後の公表ガイドラインの策定、信州教育スタンダードの決め出し等々があります。一層市町村教委との連携が増すと思われます。

市行政レベルにおいては、教育振興計画、子育て支援事業計画策定があります。また、体力、学力の増進問題、キャリア教育の推進、児童生徒の学校不適応対策、通学路の安全確保、体育館問題、読書力パワーアップ事業、発達障害の地域啓発事業等々、この後事業部の目標が説明ありますけれども、塩尻ならではの事業がめじろ押しであります。保科部長さん、岩垂部長さん、田中センター長さんを先頭にたまさに精鋭部隊で、市政の中核は教育、子育て部門にありと、こういうことを腹に据えて、ことしも邁進していきたいと思っております。教育委員会制度の内容は、来年度に法制化されると予測されております。私たちは危機に強い教育委員会、頼りにされる教育委員会を目指して、4人は教育長をお支えする覚悟であります。とは言っても有能な力のある事務局あつての私たちだと、こういうふうにご心得しておりますので、1年間よろしくをお願いいたします。

## 2 前回会議録の承認について

**小澤委員長** 次第に従いまして2番、前回の会議録の承認について事務局からお願いいたします。

**上條教育企画係長** 前回3月定例会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

**小澤委員長** よろしいでしょうか。よろしくをお願いいたします。

## 3 教育長報告

**小澤委員長** 3番、教育長報告に入ります。教育長から総括的にお願いいたします。

**山田教育長** 今年度最初の定例教育委員会であります。よろしくお願いいたします。この4月でありますけれども、時には、今日もそうですけれども、夏日になるような暖かな日が続く、例年になく桜が早く咲き始めたかと思うと、時に寒気によって急に冷え込み、咲いた桜の上に雪が積もる、また、一面銀世界にするような雪が降るといのように寒暖の差が非常に激しくなっております。市内では農作物への被害が伝えられており、心配される場所があります。国、県のさまざまな動向につきましては、今、小澤委員長の挨拶の中にありましたとおりであります。そうした状況ではありますけれども、本市の教育におきましては、生涯学習のそれぞれの場面においても、また、幼保小中の教育現場においても、未来を志向する安定した学びが繰り広げられて、子供たちを初め多くの市民が、その人らしく伸びやかに成長する1年にしたいなど、そんなことを年度の頭に対して、心より願うところであります。

さて、今月は着任式、それから入学式、入園式、始業式等々、さまざまな場で年度のスタートが

切られました。参加していただいた多くの方からその様子をお聞きいたしました。いずれも非常に晴れやかで、しかもしっかりと前を見つめたよい出発の機会になったのではないかという報告を受けて喜んでいてところであります。私が出向きました片丘小学校の始業式の様子についてちょっと触れたいと思います。始業式では2年生と6年生が、それぞれ新たな学年に進級した決意を全校の前で発表いたしました。その2年生が本当にはっきりとした口調で、しかもしっかりとした声で3つ話したことは、次のようなことでした。1つ目に、勉強では知らない漢字を覚えたい。字を真っすぐに丁寧に書きたい。初めて習う九九をしっかりと覚えたいというものでした。2つ目に、丘っ子祭りでは初めて自分たちで店を出すので、来てくれる人が楽しんでくれるような店にしたいというものでした。3つ目は、学校生活では並び方を1年生のお手本になるようにしたい、そして自分たちでどんどん行動したいというものでした。どうでしょうか。私は、この児童の入学当初のことを知っているわけではありません。しかし、この1年間この子がどのような過程でどのような成長をしたのか、これからどんな成長をするのだろうか、そのようなことが見えてくるような気がしました。また1人の人間の持つ可能性の大きさというものも実感いたしました。こういう姿を見ていて心を動かされたわけでありますが、同時に私の目の前が開けていくような明るさっていうようなことも、その姿から感じました。それと同時に本市の中には、多くの子供たちが、今、保育、教育の現場で一生懸命学んでいるわけであります。そうした全ての子供たちに、このような豊かな成長と未来に対する希望を持った子供たちに育てていきたいな、そういうものを保障したいなと、そんなことを強く思われました。

今、教育の現場でありますけれども、本当にさまざまな課題が話題となっております。そういった時に、どちらかというとなりの視点というかマイナスの視点ですね、こういうことはまだできないからとか、ここをよくしなくちゃいけないからとか、体罰の問題があるからとか、いじめ、不登校があるから、だからこれがいけない、これをこうしなくちゃいけない、そういうことがかなり話題になっております。そういった発信や報道は目につきやすいわけでありましてけれども、しかしながら、よくよく目を凝らして見てみますと、今の子供の例のように豊かな学びの姿、それから豊かな成長の姿が学校教育の中でも、また生涯学習の中でもさまざまな場面で見られているわけでありまして。また、そうした豊かな成長を支える保育士、教職員、保護者や地域の住民など、そうした姿が至るところに存在しております。何とかそうした姿を私たちがしっかりと受けとめて、具体的に、また積極的に発信して、それを共有することで本当の意味での自信と誇りを持ちつつ、前年度、時に信頼関係を失う、そうした場面もあったわけでありましてけれども、本当の意味での信頼関係を築きながら、みんなが胸を張って未来を支える教育に当たって行く、そうした環境を整えていきたいなと、そんなことを強く願っているところであります。そうした意味で、今、学校のホームページを見させていただきますと、ホームページまた通信で積極的に学校の様子、地域の様子、子供たちの様子を発信し始めようとしている姿が見られております。心強く思っているところであります。教育委員会としても、また事務局としても、そうしたものをしっかりと共有して、また私たちが現場で受けとめた事業や活動のよさにつきましても、積極的に発信してまいりたいなと、そんなことを思っているところであります。

先ほど事務局のほうの自己紹介がありましたけれども、新年度、事務局のほうも新たな陣容でスタートしているところであります。平成25年度は第四次総合計画後期計画のいよいよ仕上げにかかる大切な時期であるかなと、そんなことを思っております。後ほど第4号で報告いたしますけれども、平成25年度につきましても、ソフト、ハード面にわたり多くの事業を位置づけております。市の重点施策であります教育再生にかかわる諸事業につきましても、市民の関心も高く、成果への期待も本当に大きなものがあります。施策の目的や目標、その原点に返りながら、教育の質的な向

上でありますとか、市民サービスの水準の向上に対しまして効果を生み、成果につながるよう事業推進してまいりたいと思います。以上、よろしく願いいたします。

**小澤委員長** ありがとうございます。この際、御質問、御意見、御感想等ございましたらお願いいたします。前回3月の時に石井委員のほうから卒業式にかかわるうれしいニュースや報告があったわけですけど、入学式に当たって御感想どうでしょうか。

**石井委員** 今、教育長さんが言われたように、私の行った学校では本当に整然として、すばらしい入学式だったと思っております。

**小澤委員長** ありがとうございます。

### ○報告第1号 主な行事等報告について

**小澤委員長** では、報告第1号、主な行事等の報告に移ります。資料の1ページから3ページです。御参加された中で御感想等お寄せください。

**田中委員** 3ページの大きな絵本のおはなし会で、済みません、参加したのではないのですが、ちょっとお伺いしたいと思います。講師の中で、ボランティアで小学生の6年生が2人とありますけれども、どんな役割を担っていただけたのか、御紹介していただけたらありがたいんですけど。

**小澤交流支援課長** 済みません、きょうは資料を持参しなかったため御説明できませんが、後ほど田中委員さんのほうへお伝えしたいと思います。

**小澤委員長** では、1つお願いします。3月17日のスポーツ外傷予防講習会であります。今、体罰に絡めてさまざまところで運動生理学にかかわる講習会が開かれております。学校現場においても、この点が弱いものですから非常に助かっておるわけです。それで、学校現場にいた者として感想であります。運動生理学は専門のお医者様等々から専門的に教えていただくことで結構でありますけれども、一番は部活にかかわる問題でありまして、殊に新卒の方々は学校において、教職課程の中では部活の組織だとか運営方法等については全然勉強する機会がないんです。赴任して、あなたやってくれ。はい、やらせていただきます。即、子供に対するわけであります。それで、新人が一番悩むのは、どういうふうに運営していったらいいかってのがわかんないわけであります。また機会がありましたら運動生理学と部活運営学っていうのか、そんなような点も生涯学習部のほうでフォローしていただければありがたいなと、そんな思いがあります。もし受けとめていただけたらという話であります。

「小口益一とJOMON」展、行かせてもらいました。館長さんのアイデアっていうのが、すごいなと思ったわけであります。学生の参加状況はどうなのかなということが、ちょっと苦になりました。子供たちの参加状況です。それから、縄文土器が無造作にこうやって置いてあったわけですけども、あれは意図があって、ああいうふうに見つかり、そこから夢を感じろよと、そういう意図だと思うんです。小口さんもそこからうんと触発されたと書いてありました。土器の置かれてある場所は、子供たちの視線より高いんですね。だからもうちょっと下げただけであれば、子供たちゆっくりとたたずんで、イメージを膨らめるんじゃないかなということを思いました。学生の参加状況について、館長さん、いかがでしょうか。

**小林平出博物館館長** 総人数292人と書いてありますが、ほとんどが大人の方でありました。ちょうど冬場一番寒い時期でありまして、子供だけではなかなか博物館に来る時期じゃなかったということもあるかと思えます。恐らく、ちょっと正確な数字はわかりませんが、子供さん、多分50人くらいだったかなっていうような気がしておりますので、ほぼ大人の方がごらんになったということだと思います。

あとですね、縄文土器の展示のことなんですけども、平出におきましてはなるべく露出展示って

言いまして、ケースの中に閉じ込めるのではなくて、外へ出してごらんいただくということをやっております。ちょっと展示台の高さにもよりますけれども、小さな子供というか小学生にはちょっと高いかなという気はしますけれども、ちょっと展示台の高さの規制があるものですから、ちょっと高めだったと思います。ただ「小口益一とJOMON」展におきましては、じかに床の上にも置きましたので、そんなことで子供さんには、実際手でさわれるくらいに見ていただきたかったという気持ちであります。以上です。

**小澤委員長** ありがとうございます。また暖かい時にやっていただければと、そんな要望であります。お願いいたします。

**石井委員** 1点よろしいですか。先ほど委員長さんのほうからお話があったんですけど、スポーツ外傷予防ということでもって、講習会を市民交流室で開いていただいたということですが、これ非常に大事なことは、成長期におけるやっばし運動によつての傷害が非常に多いということでもって、私どもは軟式野球のほうですけども、軟式野球の指導者を対象にして、そういった講習会をやったわけです。これは北信越という名前でもってやって、塩尻市教育委員会からも後援ということでいただいてやったわけです。150人のところ230人も集まったということで、指導者自体が非常に関心が深いということですので、やはりこういったことについては、どしどしスポーツ振興課のほうでもって進めていただいて、せつかくの子供が、将来侍ジャパンの選手になれるような子供もいると思いますので、それを指導者が悪くて潰しちゃうようなことのないようにしていただきたいなど、こんなぐあいに思っております。

それから中学校の部活の先生ですけども、確かにこうやって見てますとね、非常に教え方に問題があるなというふうに思ってます。私ども軟式野球の場合には、先生方も私どもの軟式野球の部門の中に少年部というものをつくりまして参画をしてもらって、同じ指導をしてもらうようなぐあいにやってるわけなんですけども、各種目でもってやはりそういったことを考えていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思ってますので、またそんな機会がありましたらお考えをいただきたいなど思っております。よろしくお願ひします。

**小澤委員長** 石井さんの主催された軟式野球の講習会というか講演会、参加者の方々がメモをとって、居眠りしてるような様子は誰もいなかったと感心しました。やっぱりみんなそういうことに関して関心が高いんだなということも思ったわけでありまして。学校関係も多かったですね。

**石井委員** 野球部の部活を担当している先生は90人出席されました。ですから、県内のほとんどの先生方、それから遠くは新潟、福井というようなことでもって非常に関心が高かったな、これだけ一生懸命やってくれりゃいいなというふうに私も思ったわけですけども。

**小澤委員長** 学校教育を支える場で、ありがとうございます。

行事報告等よろしいでしょうか。次にまいります。

### ○報告第2号 5月の行事予定等について

**小澤委員長** 5月の行事予定表であります。見ていただいてお聞きする点があったらどうぞ、お願いします。5月の定例教育委員会、5月23日木曜日、この会場で午後1時15分からであります。よろしいでしょうか。

### ○報告第3号 後援・共催について

**小澤委員長** 続いて後援・共催の報告です。お気づきになった点、お寄せください。

**上條教育企画係長** 1点報告を申し上げます。6ページでございますけれども3番、承認月日が資料送付の折に入っておりませんでしたけれども、4月19日に承認されておりますので、よろしくお願

いたします。

**小澤委員長** よろしいでしょうか。

#### ○報告第4号 平成25年度教育委員会事業部目標について

**小澤委員長** では、報告第4号、平成25年度教育委員会事業部目標についてであります。本日資料が配付されております。各部長さんから御説明をいただければありがたいわけでありますけれども、よろしく願いいたします。

**保科子ども教育部長** それでは、子ども教育部から平成25年度事業部目標について御報告のほうをさせていただきます。多少時間いただきますので、座って説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

資料の1ページで、まずミッション1、次のページでミッション2と3ということで、子ども教育部では平成25年度の事業目標のミッションを3つにまとめさせていただいております。昨年度の平成24年度につきましては、このミッションが6つございました。これは子ども教育部には、教育総務課、子ども課、家庭支援室の3つの課がございまして、どちらかと言いますと、それぞれの課ごとの業務からミッションを整理させていただいたということで、ミッションの数が多くなっておりました。子ども教育部の設置目的はゼロ歳から18歳までのお子さんの継続した就学支援といたしまして、1つの部で一貫して行うためにもともと設置された部でございますので、本年度はこの原点に戻って、ミッションについてはできるだけ1つの部としてのミッションとして整理したいということでまとめさせていただいております。あわせて各ミッションにぶら下がっております重点事業につきましても、各課ごとに重要な事業でありましても、予算づけによりまして、当然実施する事業、例えば長時間保育事業ですとか、中学校30人規模学級事業などにつきましては、単年度の事業部目標の重点事業からは外しまして、別に実施いたします事務事業評価というものを平成25年度から事業ごとにしっかり行うことになっておりますので、そちらのほうでしっかり評価させていただくということで、平成25年度としての目標に、平成25年度としてどちらかと言えば努力してやっていく事業について重点事業として厳選をさせていただいております。具体的な事項について説明をさせていただきます。

まず、ミッション1でございますが、子どもと保護者のために、幼稚園・保育園、小学校、中学校の各成長段階に応じて継続した就学支援を行うとともに、総合的な学力の向上と個に応じた指導を進めるため、きめ細やかな学習支援を行いますとしております。先ほど申し上げましたように、特に幼保小中の一貫した支援ということを主にあらわしております。このミッションの重点事業では7つの事業をピックアップしております。

まず「笑顔で登校」推進事業、これは主に不登校の予防・改善を図るための事業でございますが、平成25年度につきましては、新たに学校スーパーバイザーというネーミングにしておりますが、養護講師で専門的にスクールカウンセリングを行う講師を配置いたしまして、学校支援コーディネーターとともに不登校児童・生徒に対して、個々の状況に応じたきめ細かなフォローや未然防止策を行うとしているものでございます。また「ハイパーQ-U」アンケート、楽しい学校生活を送るためのアンケート調査でございますが、これはいじめ等の把握対策としても大変効果的なアンケートになります。今までの中学校での実施に加えまして、平成25年度は小学校高学年にも拡大して実施するとしております。

次の図書館システムの運用、これは平成24年度、昨年度をもって学校図書館図書管理システムを導入いたしまして、蔵書図書の登録も完了いたしましたので、平成25年度は児童生徒の読書活動ですとか、調べ学習の支援を推進することとしております。数値目標のところにはレファレンスと

という言葉が出てまいります、これは図書館用語としては資料相談サービスという意味でございまして、何々について調べたいですとか、何々が載っている本を見たいといった相談に対して行うサービスということでございまして、学校図書館においても現在市立図書館で行われているこういったサービスを、子供に対して実施していきたいというものでございます。

次の学校給食レシピ公開事業、これは各学校の給食メニューのレシピを専用のホームページで公開していくものでございまして、実施は平成26年度からの公開を予定しております。平成25年度は、この準備のためにシステム開発とレシピ登録をするものでございまして、学校給食は食数が何百食と多いものを家庭用の3人用とか4人用といった食数に変換したり、また実際の給食の写真を掲載するための作業を本年度は行います。先進事例といたしましては、東京の足立区で実施しておりまして、一番の目的は偏食が激しいお子さんに、家庭でも食の大切さや残菜を残さずにもりもり食べてもらうということでございまして、給食自体が12栄養素の摂取、1食約650キロカロリー、塩分は3グラムまでといった国が定めた子供向けの栄養基準から児童生徒の保護者以外にもですね、60歳以上の方の高齢者からの反響もあって、足立区では「足立区の給食」という本まで出版いたしまして、初版の8,000部が完売して増刷しているというほどの人気ぶりということでございます。

次の学校給食公会計の運用、これは昨年度まで給食費を学校ごとに徴収して食材を購入しておりましたが、本年度からは給食費を市の一般会計で一括して集めまして、食材費の支払いも一括市の会計で行うというものでございまして、これによって保護者の利便性が確保されるということと、学校やPTAの負担が軽減されるものでございます。また、あわせて地産地消の推進を図りまして、地域食材を生かした学校給食レストラン、これを市の文化祭などのイベント時に実施するという計画もございまして、今までどおり学校行事として保護者の方、あるいは地域の方にも給食を食べてもらう機会を提供していきたいというものでございます。

次の家庭教育の支援は、「早ね、早おき、朝ごはん、どくしょ」を推進いたしまして、子供たちの基本的な生活習慣の定着を図るものでございまして、子供たちを暴力から守るためのCAP研修を実施するものでございます。

次の元気っ子応援事業、これは継続事業でございまして、乳幼児健診から全ての子供たちの個性や特性を把握しながら、健やかに成長できるよう支援を行っている事業でございまして、この事業を始めましてからの子供たちが、いよいよ平成26年度からは中学校に進学するというので、中学校との連携も推進していく準備をしていきたいというものでございます。

次のまなびサポート事業は、特別支援が必要な児童生徒に、塩尻市といたしまして特別支援講師と支援介助員を配置するものでございまして、平成25年度は特別支援講師を1名増員、支援介助員につきましては3名増員して対応をさせていただいているところでございます。

ページめくりまして、裏面のミッション2でございまして、子ども、保護者、教職員及び地域住民のために、安心して子どもを生み、健やかに子どもが育つ安全で安心な環境を、ソフト・ハード両面から整備しますとされています。特に安全安心な環境整備ということをあらわしております。このミッションの重点事業では4つの事業をピックアップしております。

まず、学校通学路安全対策事業、これは通学路の安全点検、これを昨年度に続きまして継続的に実施をいたしまして、学校施設と周辺のカーブミラー、交通安全看板の設置、また横断歩道の横断旗とそれに伴うボックスの更新、新設などを行うものでございます。

次の保育施設の耐震化推進事業、これは保育園と児童館の窓ガラス、これが破壊して割れて飛ばないように飛散防止のためのフィルムを張るものでございまして、次の学校施設非構造部材の耐震化推進事業、これにつきましても同じく窓ガラスの飛散防止のほか、天井についている照明器具で

すとか、体育館についている大きなバスケットゴール、つり下げているものですが、こういったものの耐震化を実施するものでございます。

次の塩尻東小学校大規模改修事業、これは老朽化した校舎と体育館のリニューアル工事を実施するものでございますが、本年度につきましては、年次計画に従いまして実施設計を行います。実際の改修工事は平成26年度に国の補助金を受けて実施するというようにしております。

次のミッション3でございますが、子どもと保護者のために、次世代を担う子どもたちを育成する「教育振興基本計画」、「子ども・子育て支援事業計画」に御家庭や地域の意見を反映させるとともに、積極的に情報発信をし、市民に信頼される開かれた教育行政を推進しますとしております。特に開かれた教育行政の推進ということをあらわしております。重点事業では3つの事業をピックアップしております。

まず「教育振興基本計画の策定」、これは教育基本法に規定された教育振興のための基本的な計画といたしまして、塩尻市の次の第五次の総合計画の策定にあわせまして、平成27年度から始まる計画を新たに策定したいというものでございまして、本年度につきましては、市のほうで教育振興審議会というものを設置して検討するとともに、保護者アンケートを実施いたしまして、基礎調査、現状把握、課題分析を平成25年度は行いたいというものでございます。

次の「子ども・子育て支援事業計画」の策定、これは「子ども・子育て支援法」に基づきまして、これも開始の年度が平成27年度からとする計画でございます。この計画を新たに策定するために、本年度につきましては、新しい制度の給付・事業のどれくらい必要量があるのか、需要見込みの調査などニーズ調査を実施するというものでございますが、まだ具体的に国のほうで調査項目等も決まっておきませんので、後期のほうの調査になるのかなというようところでございます。

最後の教育委員会議事録等の公開、これは既に実施しておりますが、より透明性のある教育行政を推進していくということの姿勢をぜひお示したいということで、あえて重点事業としてピックアップしたものでございます。

こども教育部の事業報告につきましては、以上でございます。よろしく申し上げます。

**小澤委員長** ありがとうございます。続けて生涯学習部岩垂部長さん、お願いします。

**岩垂生涯学習部長** それでは、生涯学習部3ページから5ページ、6つのミッションでございますが、座って説明させていただきます。

**小澤委員長** お願いします。

**岩垂生涯学習部長** それでは、ミッションの1でございます。2段目からでございますが、学習施設の整備改善、公民館活動の活性化支援という形で2つの事業を持っております。総合文化センター改修事業ということで、このセンターをつくりまして32年が経過しております、いろいろ弊害が起っております。その1つとしまして屋根の防水改修工事を行うということでございます。これにつきましては、全部、100%やるわけではなくて、3階とふれあいプラザの2カ所を除きまして実施します。期間につきましては6月からということで、短歌フォーラムや文化祭に影響しないように工事を終了する予定でございます。

2番目の公民館事業でございますけれども、各種学級講座の運営ということで、参加者を1万4,500人という形で数値目標を掲げております。

ミッションの2でございます。後のほうになります。地域文化の情報発信、芸術文化の学習や発表の場の提供を行うというものでございます。その1つとしまして、全国短歌フォーラム事業でございます。「第27回全国短歌フォーラム in 塩尻」という形で、一般の部につきましては9月28日、29日。それから学生の部につきましては11月30日に開催予定でございます。なお、ことしのお題は「川」という形でございますので、委員の皆様につきましても、よろしくお願いた

したいと思います。学生の発表の部ですけれども、一応3校を予定をしております、広丘小、吉田小、あともう1校をあついで決定するという段階になっております。数値目標といたしまして、一般の部の投稿数ということで3,500首、学生の部の投稿者数ということで1万5,000首という形を掲げております。

2番目でございますが、地域文化啓発発信事業、これは、塩尻市ゆかりの偉人や文化をブックレット、小冊子でございますが、これにまとめまして発行するというものでございまして、平成25年度につきましては、「広丘歌人物語（仮称）」でございますが、これを計画しております。一応、童話作家の和田昇氏のほうに依頼をする予定で計画しております。

3番目の芸術文化事業でございますが、芸術文化活動者の発表の場という形で市民音楽祭、文化祭など11事業を計画しております、数値目標は2万4,000人を予定しております。

めくっていただきまして4ページでございます。ミッション3でございますが、2段目から市内の文化財の保護と重要文化財・重伝建地区等の保存・活用を推進するというものでございます。

1番の重伝建整備事業でございます。奈良井地区で修理が1件、木曾平沢地区で修理3件、修景が1件という形で文化財整備を行いまして、歴史的景観整備を行うことによりまして観光的資源も含め地域の資産化を推進するものでございます。

2番目の同じく重伝建の今度は防災施設整備事業でございます。木曾平沢の消火施設の整備を行うもので、平成24年度に実施設計を行いまして、平成25年度から27年度という形で設置工事を行います。

3番目の伝統的建造物保存調査事業でございます。本棟造りがあります平出地区の民家の学術調査を行いまして、平成25年には報告書を刊行する予定でございます。

4番目の国指定文化財修理事業でございます。塩尻市には国指定重要文化財民家が6軒という形になっておりまして、右側にあります小野家の住宅につきましては、現在ほとんど95%完成しておりまして、この8月に完成予定でございます。次に堀内家、小松家という形で修理を行うということでございます。

今までの社会教育課のミッションでございましたけれども、ミッション4につきましてはスポーツ振興課になります。「市民みな1スポーツ」の普及・推進と体育施設利用の利便性の向上を図るというものでございまして、1番の中央スポーツ公園改修事業につきましては、サッカー場人工芝化工事を行います。それと、駐車場の出入口改修工事というものでございます。

2番目の新体育館の方向性の検討というものでございます。これにつきましては、かなり難しい問題はあるわけですが、五次総の計画の策定過程で方向をつけていきたいという形で、まずつくるかつからないか、それから、つくるとすると規模をどのくらいにするか、ランニングコストはどのくらいかかるかというような形で、調査・研究チームをつくりましてこの方向づけをしっかりとつけていきたいというふうに考えております。

3番目の第5回塩尻ぶどうの郷ロードレースでございますが、9月29日の日曜日に2キロ、3キロ、5キロ、10キロという形でコースを設定しております、参加者数は2,000人ということでございます。これは、応募者数が多すぎて2,000人で区切るというような状態でございます。

次、5ページでございます。こちらは男女共同参画・人権課の関係のミッション5でございますが、社会人権教育推進事業という形で、ことしは12月1日に豊かな心を育む市民の集いを開催。それから2番目としまして、やさしく女と男の推進事業で21世紀セミナーシンポジウムを11月、あと、一番下にありますけれども、女性相談の充実という形で、今まで週3回の相談でございましたけれども、月曜日から金曜日まで行うという形で実施したいというものです。

最後のミッション6でございますが、平出博物館の関係になります。平出遺跡公園や平出博物館の活用ということで、1番、博物館の運営事業でございます。企画展、ジュニア考古学教室、あと土曜サロンなどがございまして、入館者数は6,500人を数値目標として掲げております。

次に、遺跡公園事業でございますが、ひらいで遺跡まつりを9月8日に予定しております。ほか、あと2つのほかの事業を計画しております。

3番目でございますが、埋蔵文化財の保護事業、FPプロジェクトの用地内の遺跡発掘調査等を実施するものでございます。

4番の平出遺跡発掘整理事業という形で、報告書の縄文編を編集するという内容でございます。以上でございます。

**小澤委員長** ありがとうございます。センター長、お願いします。

**田中市民交流センター長** それでは、市民交流センターですが、資料の6ページになります。私どもは、各課ごとにミッションを持っておりまして、3つに整理をしております。座って説明をさせていただきます。

まず、ミッション1であります。これは交流支援課ということですので、市民の皆様あるいは市民活動団体の自主的で多様な活動を支援するというのが1つございます。また、実施事業ということで、機能の融合を目指している施設でございますので、そのための事業を展開していきたいというのが2つ目でございます。

重点事業として3つ掲げてございまして、1つは管理事業ということで、清掃でありますとか警備、空調機械等の点検が主になりますが、こういったことを通じましてですね、貸館の稼働率70%以上を目指していきたいと、こんなふうを考えております。昨年度の実績ですと、大体77%くらいの稼働率になっておりますが、そういう目標を掲げております。

2番目の交流企画事業であります。毎月、事業報告、行事報告でさせていただいておりますが、相当の数の講座あるいはワークショップ等を開催しております。開館3周年を迎えるということになりますので、読書による人づくり、あるいはその他のさまざまな事業を展開していきたいと。来館者数につきましては、年間60万人を目指していきたい。ちなみにですね、開館から2年8カ月になるわけですが、164万人の、これまでの御来館をいただいております。平成23年度、24年度を比較しますとですね、24年度のほうが来館者が約5万人ほどふえている。こんなような状況でして、さまざまなイベント等の成果が出てきているのかなというふうに考えております。

3番目は、協働のまちづくり推進事業ということでございます。これにつきましては、従来ですね、提案公募事業というものを2つ、市民交流センターの中で展開するものと、全市的にですね、建物にかかわらず展開するもの、2つを持っていたわけなんです。それを1つにした新たな助成制度を「まちづくりチャレンジ事業」ということでスタートいたします。現在、各説明会等が終わって新たな事業をことしから展開していくと、多くの皆さんの御利用をいただきたいということでPRに努めているところです。

ミッションの2番目になりますが、こちらは子育て支援センターの関係になりまして、子育て中の家庭のための交流や研修、出前支援等の支援をしていきたい、特に、ことしにつきましては出前支援に力を入れていきたいというふうに考えています。

重点事業の1つ目、子育て支援センターであります。これは北部子育て支援センターと市民交流センターの中にある子育て支援センター、2つの合計になります。年間の利用者につきましても2万5,000人を目指してやっていきたいと。先ほど申し上げました出前支援、あそこへ来ていただく方というのはですね、こう言ってはあれなんです。それなりに大丈夫かなというところですが、そこへ来れない方もございますので、そちらのほうへ力を入れていきたい。

それから、こども広場につきましても、年間5万人を超える利用をいただいておりますので、最近、木育ということで木に親しむというようなおもちゃも大分用意をしておりますので、そういった形をさらに進めていきたいなど。

ミッションの3になりますが、これは図書館になります。図書館につきましてもは、読書を通じた人づくり、また、課題解決に役立つ情報提供と、こういったことを進めていきたいということでもあります。

重点事業といたしましては、図書館全体の話になりますが、基盤整備事業という名前になっています。ことしは子供の読書力パワーアップ事業ということで、学校の司書の皆さんとともにですね、連携を深めまして読書の力を生かしていきたいというふうに考えております。目標とするのはレファレンス、先ほどもちょっと説明がございましたが、年1,000件を目指していきたいというふうに考えております。

それから、2つ目ですが、昨年から始めました本の寺子屋事業、本日お手元に今年度のパンフレットをお配りしてございますが、昨年につきましても大分好評いただいたり、マニアから注目をいただいている事業になっております。昨年は手探りでございましたが、大分定着化の様子も見られますので、その流れを確実なものにしていきたいということで、お手元にあるパンフレットを中心に展開をしていきたいというふうに考えております。簡単ですが、以上でございます。

**小澤委員長** ありがとうございます。私たち、今年度の予算編成の段階から説明を受け、理解してきたつもりでありますけれど、きょうまたこうやって見やすく整理していただいたものをお示しくさせていただきました。委員の皆さん、御説明を聞いて、改めて御意見等を寄せていただければと思います。いかがでしょうか。

**田中委員** こども教育部のミッション1のNo. 1の「笑顔で登校」推進事業なんですけれども、スーパーバイザーを配置してくださったということで、拠点校はどこになったのでしょうかということと、もう1つ、Q-Uアンケートなんですけど、より詳しくわかるハイパーQ-Uにさせていただいてすごくありがたいんですけども、この結果を担当の先生が活用することについて、活用状況と、その担任の先生が活用するに当たってなかなか見ただけではわからないので、解説するような講座等はまた予定されていますでしょうか。

**小林教育総務課長** 学校スーパーバイザーの拠点校でございますが、塩尻中学になっております。ハイパーQ-Uの実施につきましては、やはり見方というんですか、分析をしてそれを活用しなきゃいけないので、学校支援係のほうで研修会等を予定していると聞いております。

**田中委員** 続けて、同じ7番のまなびサポート事業なんですけれども、毎年毎年、特別支援講師と支援介助員の先生方を増員していただいておりますけれども、この先生方の役割を明確に学校側が理解して実際に活用しているかどうかということが少し疑問になったり、または、ある学校の先生は、学校は療育するところではないというふうにおっしゃったようにも聞いておりますので、特別支援講師、支援介助員の先生方が当該の学校に入って効果を上げるためには、個別の教育支援計画ですとか、個別の指導計画があった上で活用していかないと、この先生方の役割が明確になりませんので、今後はそういう計画のあるお子さん、ある学校に配置していただけたらと思いますけれども、ことしの状況はどうでしょうか。

**清水こども教育部次長（家庭支援室長）** まなびサポート事業ですけども、年次計画的に増員をしてきているところです。特に支援介助員につきましても平成23年度からということで、学校サイドで特別支援講師と介助員の違いといいますか、ここの辺、ちょっとまだ先生方、異動があるものから、この辺で本日も実はちょっと問い合わせがあったところなんですけれども、ちょっと目線合わせができていない部分もあるのかなど。説明会は3月の段階で1回、4月に入ってから1回、

それぞれ先生方に来ていただいて説明をしているところですけども、今後も機会を見ながら説明をさせていっていただきたいということでやっております。あと、特に特別支援教育と療育の違いを学校の先生方がなかなか混同している部分があるといいますか、あるいは、発達障害を支援することは療育で、特別支援教育はその発達障害を持っているお子さんの学びを特別に支援するということが特別支援教育というふうに勘違いをしている先生方もおられるので、そこは、県の教育委員会も含めて、なかなか難しい線引きのところなので、それも研修の中身も整理する中で研修をしていきたいというふうに考えています。

現在、個別の支援計画と指導計画という2つの学校サイドの考え方、考え方といいますか、基本的にはつかないといけないという、特別支援学級についてはつかないといけないとなっているんですけども、それも確実な支援計画、指導計画の策定に向けて、できる限り特別支援教育コーディネーターの先生方とも相談させていただきながら、今年度確実に一つ一つ積み重ねていきたいというふうに思っています。既に、今年度介助員を配置した、新しく2名の方が入ったところについては、きょうもちょっと午前中に行ってきたんですけども、特別支援計画を今後どういう形で策定していったらいいか、それは特別支援学校のそういう専門の先生と一緒につくっていくとか、その辺のネットワーク、外部資源も活用しながらつくっていくということで話をしているところなので、一斉に、一気にはいきませんが、一步一步着実に成果が上がる形で取り組んでいければいいかなというふうに考えています。以上です。

**田中委員** 期待しておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

**小澤委員長** はい、よろしくお願いいたします。

**渡辺職務代理者** 数値目標の欄があるんですけども、数値目標というのは、現状がまずあって数値目標が出てくると思うんですけども、その現状、例えば平成24年度の実績というのは、書く欄というのがないんですけども、これは、この様式というのは全市共通の様式なんでしょうか。

**保科子ども教育部長** これ、指定様式になっておりますので、どこの部もこういった形に統一されております。

**渡辺職務代理者** できれば、現状がわかったほうが、それを見て、数値目標がこうなんだなということがよくわかるような気がするものですから、ちょっとそのあたり検討していただければと思います。

**石井委員** スポーツの関係ですけども、中央スポーツ公園のサッカー場の人工芝、よくこれだけの予算が取れたなと思って感心してますし、すばらしいなと思ってますけども、1点、残念なことは、スポレクバイアは全く中止にしちゃったということですね、スポレク。

**岩垂生涯学習部長** やります。

**石井委員** やるの。じゃあ、予算。この中でもって、どこで取り組んでるか。

**岩垂生涯学習部長** これはあくまでも重点事業ということだけなものですから、これ以外をやらないというわけではなくて。

**石井委員** 今までの継続事業としてはやっていくということ、そういう考え方ですね。

**岩垂生涯学習部長** これは、ほかにもあげてございますので、よろしくお願いいたします。

**石井委員** それならいいけども、せっかく親子連れで来てスポーツにチャレンジする第一歩のところになくなっちゃったんじゃないかなと感じたものですから、済みません。

**小澤委員長** それでは、3点、よろしくお願いいたします。

1点目は6番であります。元気っ子応援事業、いよいよ中学校へ渡っていくわけであります。中学校の先生方は夏休みの時に悉皆研修で十分このシステム、あるいはメリット等を理解していただいていると思うんですけども、今、事務局の段階で苦になることとか、困難なこととか、ち

よっと配慮してかなくちゃいけないというようなことが予測される点があったら、教えていただきたい。これが1つであります。

2つ目は、教育委員会の会議録の公開であります。毎回、会議録を公開してくださっておるわけでもありますけども、多分あまり見られてはいないんじゃないかなんてことを思うわけでもあります。どうしたら教育委員会に目を向けてもらえるのかというようなことが、いつも頭の中をよぎるわけでもあります。この点は、私ども教育委員の中で考えていかなくてはいけない問題かなと思います。例えば、他団体との意見交換会、懇談会というようなものを持ちながら、教育委員会活動というものを浸透していくとか、知っていただくということも一つの方法とも思います。これは、お答えいただかなくて結構であります。

生涯学習部、短歌フォーラムの件でありますけども、広丘小、吉田小学校、これは毎年同じわけでもあります。もう1校は中学をぜひ入れていただきたいなという要望と、底上げを図っていくためにも学校を回していただきたいなと、そんな思いであります。元気っ子応援事業から、清水さん、よろしく願います。

**清水こども教育部次長（家庭支援室長）** 小学校から中学校の途切れのない支援をいかにするかというのは、非常に幾つか課題を抱えているという実情です。他市町村もなかなかそこがうまくいかないという情報収集もしてはいますが、本市におきましては、今現在、元気っ子相談から開始して、小学校1年生から6年生の応援対象児としている児童生徒が合計で380数名になっています。今月下旬からまた小学校のフォローアップに入るんですけども、その個別的な支援をどうするかというのも現状として大きい課題です。6年生だけをピックアップしますと、約50名が来年度中学生に上がるということで、まず取り組まなければいけないのは、その元気っ子応援事業の中で応援対象児としている50名の個別の支援、今まで保育園、小学校と引き継いできたそのお子さんに対する支援の中身を中学校にきちんと伝えるというところです。ただ、その伝えるというのは簡単なんですけれど、だれがだれに伝えるかということが非常に問題になってきてまして、例えば小学校は1年生から2年生に上がるという、担任がかわれば担任が引き継げばいいんですけども、学校が変わるということになりますと、小学校の担任から中学校に渡すにしても、学校の先生方がまた丸っきりかわるということと、あと、教科担任になるので、それぞれ英語の先生、数学の先生、体育の先生に全部伝えるのかという、そういう課題も現実的には出てくると思いますので、その辺のシステムといいますか、途切れのない支援をどう形をつくるかというところが、1つの大きい課題になってくるのかなというふうに思っています。できればその辺のマニュアルづくりをきちっとして、小学校の先生にも御理解をいただき、中学校の先生方にも御理解をいただくというところが、今年度、大きな課題の1つとしてあげられます。

2点目として、情報がきちっと小学校から中学校に途切れなく伝わったとして、中学校の今小学校で行っているようなフォローアップをどういう形で、家庭支援室長の相談員のメンバーでやっていけるかどうかというところが、次の課題として出てきています。小学校とまた中学校は違う部分が出てきますので、その辺をどういうふうにスケジューリングしていったらいいか、あるいは、どういう人材が実際に中学生の段階で支援が必要なのかという部分も含めて検討を今進めているところです。

それから、もう1点目は、そういうふうになってきた場合に、現在、保育園、小学校、中学校というようになっていく中で、どうしても家庭支援室の人的資源が非常に厳しい状況になるというのがあるので、もうちょっと先を見通した形で途切れのない、中学校に行ったから保育園のほうが手薄になるとかということではなくて、今までどおりの塩尻らしい元気っ子応援事業をどう構築するかということが、今現在の大きい課題になっているというところです。以上です。

**小澤委員長** ありがとうございます。

**田中委員** 済みません、元気っ子応援事業の課題なんですが、元気っ子相談にかかっているお子さん以外のお子さんといいますか、この間、吉田小がユニバーサルデザイン学習指導の研究校になっているということで、授業公開を見に行ってきたんですが、小学校で気になる配慮が必要なお子さんととらえているお子さんイコール、元気っ子相談にかかっていたお子さんでないこともあるようなんですが、フォローも大切なんですが、小学校でそのように見られてきたお子さんに対するフォローといいますか、支援についてはどのようになるのでしょうか。

**清水こども教育部次長（家庭支援室長）** 先ほど、ちょっと言葉足らずで申しわけなかったんですけども、小学校のフォローアップにつきましては、当然保育園の段階で応援対象児として運用されたお子さんについて、1年生の段階では応援という形で支援をするということです。だけど、今現在、小学校、フォローアップへ入りますけども、その中で1年、2年たっただけで応援ではなくていいだろうという形になってくると、外れます。ただ逆に、応援対象児ではなかったんだけど、2年、3年になってきたらちょっと気がかりになってきたというのも、当然フォローアップの中で学校と情報交換しておりますので、その段階で支援が必要なお子さんということでカウントを入れますので、年間で、要は、全くもうある種、ほかの市町村としてはレッテルを張ったらそのレッテルがついてくるのではなくて、その子供の成長段階に応じてどういう支援が必要かということフォローアップで見ているという状況です。ただ、それでも漏れるといいますか、グレーゾーンが今一番大きい課題ということで、多分、吉田小学校の先生方は考えておられると思いますし、教育全体としても大きい課題になってきていることは間違いないのかなと。元気っ子応援事業でカウントしている部分と、小学校で気がかりというふうにかウントしている部分は、確かにずれる部分があります。それは、校長会のほうで調査をしている発達障害系と、あと気がかりで診断もとれてないんだけど気がかりという児童生徒が、やはり310名程度はあるんですけど、さっき言った数字と大体数字的には合うんですが、中身の個別の名称まではちょっとチェックしてませんが、そこはずれる部分も確実に出てくると思いますし、グレーな形でのところが、ユニバーサルデザインの教育を進める場合には特に重要になってくるといふふうに認識しております、それも大きな課題なんですが、先ほど申したように、まず50名なら50名とか、そこをきちっと個別指導計画なり個別支援計画までもきちっとつくる中で、その次という形でやっていかないと、どうしても、塩尻の元気っ子応援事業はすべてのお子さんを対象にということで旗を振っているんですけども、現実的にはなかなか難しい状況があるというところで、いろいろ検討しながら試行錯誤しながら進めているのが現状です。以上です。

**田中委員** ありがとうございます。

**小澤委員長** もう1件いいですか。元気っ子応援事業の中で応援とされている子供は三百数十人おいでになると。そして、6年間経過する中で50人ほどになってきて、あとの子供たちは普通、何ら取り立てて配慮をする必要ない段階まで来ている。私は、きめ細かな教育をしたおかげかなというふうにとらえるわけでありまして。それで、6年生の段階でもう50人そこそこというのは、特別支援学級のほうへ進むのかなんてことをひそかに想定するわけでありまして。そうした時に、教室が足りるかということが一番ネックになるわけでありましてけれども、そこら辺も含めたことが視野に入っておいでのなるかどうか、読みはいかがでしょうか。

**清水こども教育部次長（家庭支援室長）** 応援対象児としている小学校6年生の児童で約50名に関して、中学校に上がる段階で特別支援学級に入るとは限らないというふうに思っておりますし、よく言われる先ほどのユニバーサルの教育も含めてですけども、あるいは保護者の方々の教育的ニーズもそうなんですけれども、できれば普通学級でという御希望が非常に強い。それは就学相談を

する中で確実に見えてきている状況がありますので、学級数については、今ほとんどの中学校で知的障害と情緒障害の学級が開設されている状況にあります。ただ、楯川中学校だけ知的障害の学級が開設されていないという状況ですけれども、あとは学級が開設されておりますので、その中で対応できるのかなど。というのは、今まで元気っ子がやっているのがたまたま小学校6年生になっているということで、去年6年生から中学校に上がったお子さんは、元気っ子応援事業の始まる前の児童生徒だったんですけれども、その状況で今そういう状況ですので、それが元気っ子応援事業をやって支援をする中で、現在対象としては50カウントしてはいますが、そのお子さんがすべて特別支援学級という話にはならないと思いますので、その辺の特別支援学級の開設、あるいは場所等も含めた心配ということでは、今のところ、私自身としては大きくは持っていない状況です。

**小澤委員長** 平林課長。

**平林社会教育課長** 中座をさせていただいて申しわけございません。それでは、私のほうからは短歌フォーラムの先ほどの御質問に対しましてお答えをいたしたいと思います。学生動員につきましては、今、発表の関係が小学校2校ということでございまして、それに委員長さん御指摘のように、もう1校、中学校を何とかそこに参加していただくということで今、取り組んでいるところでございます。ただ、具体的なことにつきましては、実行委員会をまだ開催してございませんので、今後そんな形で取り組みをしてまいりたいと思っております。

また、ローテーションのお話も出ましたけれども、本来あれなんですけど、若干学校によっては温度差がございまして、取り組み状況が違うということ、特に広丘小学校、吉田小学校につきましては、短歌の古里として短歌館等も話になるということがございまして、地元ということでありまして、その辺の取り組み状況が少し進んでおりまして、2校でお願いしているということでございます。委員長さん御指摘のように、小学校につきましても今後また他校にもお願いして、できればいろんな部分で発表の場に出させていただくということで、この2校以外でお願いをしてまいりたいと思いますけれども、少しお時間をいただきたいというふうに思います。そんなふうに考えております。よろしく願いいたします。

**小澤委員長** それでは、25年度の事業報告、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

#### ○報告第5号 平成24年度中学校卒業生進路状況について <非公開>

**小澤委員長** 報告第5号、平成24年度中学校卒業生進路状況についてでありますけれども、本日、机の上に配付されております。第6号、あるいは議事第1号、非公開としたいわけですが、よろしいでしょうか。

はい。では、非公開といたします。

傍聴者が退席されましたので、事務局から説明を求めます。お願いします。

#### ○報告第6号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について <非公開>

### 4 議事

#### ○議事第1号 平成25年度塩尻市奨学生の選考について <非公開>

### 5 その他

**小澤委員長** 非公開を解きます。それでは、本日予定された案件はすべて終了いたしました。

## 6 閉会

**小澤委員長** 以上で、4月の定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後2時47分に閉会する。

以上